

## 暴風雨の後の営農技術対策

平成27年10月3日  
北海道農政部

10月1日から3日にかけて、日本海側などで、暴風雨による被害が生じたところがあります。

次の事項に注意して被害の軽減に努めてください。

### 第1 共通事項

- 1 大雨により浸水・冠水し、地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を実施するとともに、明渠や排水溝へ排水されているか確認する。土砂が流入している場合は、可能な限り速やかに土砂等を取り除き、乾燥を促す。
- 2 農作物については、病害の発生に注意する。特に収穫時期が近づいている作物に、薬剤を使用するときは、使用時期(収穫前)に注意し、ラベルに記載されている使用基準や注意事項を遵守するとともに、隣接する作物に薬剤のドリフト(目的外飛散)がないように注意する。
- 3 降雨後のほ場確認は、単独での行動を避ける。また、道路ののり面やほ場周辺の地盤が緩んだり滑りやすくなっている場合があるので、十分注意する。
- 4 冠水・浸水の被害を受けた農作業機械・設備、自動車等は、販売店等に依頼して早急に動作確認を行う。水抜きができていない状態でいきなりエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故につながる恐れがあるので、注意する。特に作業機はブレーキに泥が入り、効かないことがあるので注意する。

### 第2 水稲

- 1 浸水・冠水及び倒伏した稲は、別刈りとし、品質の低下を防ぐ。
- 2 浸水・冠水したほ場では、コンバイン破損の原因となるゴミや流入物の除去を行う。株元に土砂やゴミがたまっている場合は、高刈りや別刈りし、ゴミ等の混入を避ける。
- 3 泥土が流入した水田では、コンバインのこぎ深さの自動制御が困難となる。土砂上の草高が60cm程度までであれば、手動制御で対応できる場合があるが、コンバインが自重で沈み込むことがあるので、無理に作業に入らない。
- 4 別刈りした籾は、高水分となっているので、高温による急激な乾燥を避け、通風乾燥により籾水分を均一にしてから乾燥する。

### 第3 ばれいしょ

- 1 浸冠水により塊茎腐敗が著しく増加するので、早急に排水対策を行う。
- 2 でん原用などの晩生品種では、「疫病」や「軟腐病」の発生に留意し、ほ場の乾燥を待って防除を行う。

- 3 収穫期に達したほ場では、土壌が乾燥した後、できるだけ早く収穫する。  
収穫後は十分に風乾し、傷・打撲・腐敗・罹病いもを確実に選別して出荷する。

#### 第4 ビニールハウス等農業施設

- 1 ハウス内土壌の乾燥を促進するため、ハウス周辺の簡易排水路の整備、通路部分の停滞水の除去、マルチフィルムのまくり上げを行う。さらにハウスの開閉をこまめに行い、湿度の低下を図る。
- 2 草勢を維持するため、葉面散布や摘心を行う。
- 3 汚水で汚染した葉や果実は除去する。
- 4 ハウス内の湿度が上がり、病害の発生や軟弱な生育となるので換気を徹底し、湿度低下に務める。
- 5 病虫害防除に当たっては、土壌やハウス内の過湿により発生が多くなる病害を主体に、早めに薬剤防除を行う。ハウス内が乾きにくい状況では、少量散布防除機やくん煙剤を利用する。
- 6 土壌乾燥後、土壌診断を行い、必要に応じて追肥を行う。

#### 第5 果樹

- 1 落果果実で生食可能なものは、傷の程度により選別する。加工用も、果実が腐敗しないよう、速やかに冷蔵庫に搬入する。
- 2 落果した果実を生食、加工用として販売する場合は、薬剤の最終散布日からの安全使用基準の収穫前日数を確認する。販売にあたっては、落果品であることを明示する。
- 3 落下した果実は、傷がひどい、未熟など用途のないものであっても、病害の発生や野生動物の餌になるので落下したまま放置しない。
- 4 樹体が傾斜した場合は、動かすと根が切れるので、支柱等で固定できる場合はそのままの状態に固定する。
- 5 倒伏した幼木・若木で回復が見込めるものは、速やかに起こし、支柱にしっかり固定する。
- 6 倒伏で根が露出している場合、土盛りや吸湿性のある資材で覆うなど根群の乾燥を防ぐ。倒伏樹はできるだけ早く、根を切らないように徐々に起こし、支柱を立ててしっかりと固定する。
- 7 折損した枝は切り直し、癒合促進のため、切り口には塗布剤(ペースト)を塗布する。また、大枝が裂けた場合は、ボルト、かすがい、縄などで傷口を接着する。
- 8 落葉が著しい場合は、残った葉と着果のバランスがとれるよう、枝ズレ、刺し傷など、傷みの激しい商品価値の低い果実を主体に摘果を行う。
- 9 強風により果実のつる抜けや枝の折損により「腐らん病」が発生しやすくなるため、収穫後の秋及び発芽前の休眠期防除を徹底し、春先からは病斑の早期発見・早期治療に努める。
- 10 園地に土砂が流入した場合は、根の分布域を優先して除去し、乾燥後浅く中耕し、土壌の通気性、透水性の確保に努める。
- 11 ぶどうのハウスや棚等が破損・倒壊した場合は、速やかに補修する。
- 12 ぶどうのせん定にあたり、早期落葉により枝の登熟が悪い場合は、結果母枝を短めに切りつめ多めに残す。

## 第6 飼料作物

- 1 倒伏した飼料用とうもろこしは、畦と直角方向に倒れている場合は、問題なく刈れるが、牽引式ハーベスターではトラクターで踏まないよう、穂先を右に刈り取る。畦と水平に倒れている場合は、向かい刈りを行う。
- 2 倒伏により土砂の付着がある場合は、刈り取り高を調整する。土砂やかび混入によるサイレージの品質低下の予防には、乳酸菌等のサイレージ用添加剤を使用する。
- 3 サイレージ給与後、採食量が低下し、増体が悪くなったり下痢やアシドーシスが増える場合は、カビ毒が疑われるので、獣医師と相談する。

## 第7 畜舎等施設

- 1 水槽や飼槽は、清浄な水で洗浄する。浸水した古い敷料を運び出し、床面、バーククリーナーの土砂を洗い流し、乾燥させる。
- 2 乾燥後速やかに床面に消石灰を散布し、新しい敷料を敷く。
- 3 パドックが滞水している場合は、速やかに排水するよう溝を掘り、乾燥を促す。

## 第8 酪農

- 1 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物（通称ブツ）の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
- 2 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。
- 3 ミルカーなど電気を動力源とする機械は、通電後正常に作動するか速やかに点検する。